

令和5年度(2023年度)学校教育目標

学ぶ喜び、つながる喜び、働く喜びを実感できるチーム伊倉の仲間づくり



玉名市立伊倉小学校だより 第24号

発行 校長 福田 賢一

『字のないはがき』

本年度の学習会を振り返る閉講式を3月1日に本校6年生教室(音楽室)で行いました。教育長さん、区長さんのあいさつに続き、校長からは『字のないはがき』という絵本の読み聞かせをしました。

ちいさないもうとはまだ字がかけませんでした。文字を読んだり書いたりできることの意義・意味を再確認するのが、この本を読んだねらいのひとつです。

11日の全校集会でも再度読みました。絵本の中に「そかい」という言葉があります。「そかいというのは、かぞくとはなれて、ばくだんのおちてこない、とおいなかでくらすこと」と説明があります。実際に1945年の春には、東京が焼け野原になっていました。いま、お隣の玉東町にはウクライナから避難してこられた家族の小学生や中学生がいます。それぞれどんな気持ちで過ごしていらっしゃるのでしょうか。

11日は東日本大震災から13年でした。本校でも半旗を掲げたり黙とうをささげたりしました。能登半島地震からは2ヶ月と10日でした。被災地での中学校の卒業式も報道されています。各被災地で過ごされている方たちの気持ちには、常に寄り添っておきたいものだと考えています。

第3回学校運営協議会—3月5日

今回の学校運営協議会は本年度を振り返り、学校評価をしていただくものです。

昨年度から前期、後期の2回、児童、保護者、教職員の視点を横軸で貫いた評価で前年度との比較、前期と後期の比較をもと

に、結果に対する教職員の考察と対策を見ていただきました。委員の方々の評価とコメントをもとにした最終的な総括とグラフを保護者の皆様にお配りするとともに本校ホームページに掲載しています。

本年度最終号に際して

令和7年に創立150周年を迎える本校は、将来的には八嘉小学校との統合が計画されてもいます。少子高齢化のさなか、さまざまな意味で過渡期と言えるかもしれません。

読み聞かせや丸付けボランティアなどの地域学校協働活動に示されるように、保護者や地域とのつながりが色濃くあるのが小学校であると実感しています。伊倉支館の住所は本校にあり、本校1階の会議室は伊倉支館としての会議を行う前提で設計されていたのも象徴的です。

学校における働き方改革については、保護者や地域の方々の理解と協力が欠かせません。教育活動の主体である校区内の子供たち(児童生徒)、教職員(学校)、保護者(家庭)、地域住民(社会)、行政の五者が、それぞれの果たすべき役割を自覚し、協働の姿勢で連携しあう学校教育を創造していきたいものです。そうすることで、変化が激しく予測困難な未来であっても、よりよい社会づくりを担う人が育つことにつながると考えているからです。

今回をもって学校だよりを最終号とさせていただきます。本年度の本校教育活動へのご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

◇本校ホームページも随時更新しています。[伊倉小学校](#)で検索